

高難度手術における術前・術後の診療体制のご案内 — 地域連携で通院のご負担を軽減し、最善の医療をお届けします —

山口大学医学部附属病院 消化器・腫瘍外科（第二外科）では、山口県内の地域医療機関と緊密に連携し、患者さんお一人おひとりに最善の医療をお届けする体制を整えています。当科では、高難度の手術を大学病院で行い、術前検査や術前治療などの準備段階から、また術後の日常的な診療（投薬の継続、定期的な経過観察など）についても、患者さんのお住まいに近い地域の連携医療機関で受けていただけるようにしています。これにより、ご本人・ご家族の通院のご負担を軽減しながら、治療の全過程を通じて大学病院の専門性を活かした質の高い医療を継続してお届けすることが可能です。

連携体制の具体的な内容

当科と地域の連携医療機関との間では、以下の体制を構築しています。

- 1. 術前の診療体制** 術前の検査や、手術に先立って行う化学療法（術前化学療法）などは、連携医療機関と役割を分担して実施します。治療方針の決定にあたっては、連携医療機関の主治医とも十分に協議を行い、患者さんにとって最善の治療計画を共有しています。
 - 2. 手術の実施体制** 専門性の高い高難度の手術は山口大学医学部附属病院にて、専門チームが責任をもって施行します。手術方針の決定にあたっては、連携医療機関の主治医とも十分に協議を行い、患者さんにとって最善の治療計画を共有しています。
 - 3. 術後のフォローアップ体制** 術後の経過観察や日常的な診療は、当科とお近くの医療機関と役割を分担し連携して対応します。万一、大学病院での対応が必要な状況が生じた場合には、速やかに当院を受診していただけるよう、連携医療機関との間で迅速な紹介・受入の体制を整えています。
 - 4. 大学病院と同等の専門性を地域でも** 山口県内の各地域の基幹病院には当科から医師を派遣しており、また当教室所属の医師が定期的に地域の医療機関を訪問しています。地域での診療においても、大学病院と同等の専門的知見に基づいた医療を提供できる体制です。
-

通院にご不安をお感じの方へ

「大学病院まで遠いから」「通い続けられるか心配」——そのようなお気持ちから受診を迷われている方は、どうぞお気軽にご相談ください。

私たちは、山口県のどの地域にお住まいの方にも専門性の高い医療をお届けできるよう、地域の医療機関と力を合わせて術前から術後まで一貫して診療にあたっています。通院の頻度やスケジュールについても、お一人おひとりの状況に合わせて柔軟に対応いたします。まずは一度ご連絡いただければ、通院のご負担を最小限にしながら最善の治療を受けていただく方法を一緒に考えます。